

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (教育 学)	氏名	金 子 嘉 秀
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 明治後期の幼稚園におけるフレーベル主義をめぐる保育実践の変容に関する研究 - 京阪地域および広島女学校附属幼稚園を中心として -			
論文審査担当者			
主 査	教 授	七 木 田 敦	
審査委員	教 授	山 崎 博 敏	
審査委員	教 授	河 野 和 清	
審査委員	教 授	鈴 木 理 恵	
審査委員	准教授	中 坪 史 典	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は京阪地域、および広島女学校附属幼稚園に着目し、日本におけるフレーベル主義幼稚園の受容から十数年が経過し、これらの地域や幼稚園におけるフレーベル主義的な保育内容の受容の過程と形成・変容を明らかにすることを目的としたものである。</p> <p>本論文は5章で構成されている。序章「本研究の目的と方法」、第1章「明治期のフレーベル主義幼稚園に関する研究上の知見と課題」においては先行研究の知見と課題が議論をされ、本論文の目的と方法が述べられている。第2章「京阪地域における幼稚園研究の進展と保育実践の変容」、第3章「明治後期の広島女学校附属幼稚園における保育実践-中心統合主義カリキュラムの導入-」では資料に基づく実証的研究が行われ、第4章「明治後期の「地方」における幼稚園研究と保育実践についての考察」では研究の成果が論じられている。</p> <p>序章では、研究の目的が端的に述べられたのち、本論文に直接関連する先行研究の知見の整理と意義の検討が行われている。</p> <p>第1章では、第1節で明治期の国内外の幼稚園の動向を踏まえてフレーベル主義の定義が行われたのち、明治期の日本の幼稚園における教育史的研究の動向が「中央」と「地方」という対比的枠組みを用いつつ論じられている。</p> <p>第2章は京阪地域における幼稚園の研究活動と実践の変容が論じられている。まず当時の日本における京阪地域の占める位置付けについて言及した上で、フレーベル主義の中心的教材である恩物について、京阪地域では経済的理由や安全面での議論が中心であり、明治後期には教養性の希釈が行われたことが指摘している。加えて海外情報の流入状況が検討され、アメリカ合衆国を中心とした情報の多彩さが示されるとともに、これが議論でも参照されていたことを明らかにしている。国内のその他の地方の幼稚園に関する情報収集についても大阪市視学精品次の広島女学校附属幼稚園への着目経緯の精査を通じ、実証している。さらに京都市の幼稚園をとりあげ、保育案や規則上において、省察的な記述がみられたこと、保育内容の連続性への着目など保育実践の変容がみられたことが示された。大阪市の幼稚園における保育案の分析も行われ、保姆一人当たりの園児数の多さを背景としつつ、園児の興味や集中力を踏まえた保育</p>			

内容が模索されていた様子を論証し、集団保育におけるサバイバルストラテジーとしても重視されていたことを明らかにしている。

第3章では、広島女学校附属幼稚園における中心統合主義的方法の導入経緯とその内容が詳細に検討されている。まず明治後期の保育内容の検討に先立ち、史料に基づいて広島女学校とその附属幼稚園の沿革について検討をしている。そして教育宣教師 M.M. クックのアメリカ合衆国幼稚園教師時代のノートを精査し、中心統合主義的方法が既に用いられていたことを指摘している。加えて宮崎カメの保育案を用い、日本における中心統合主義カリキュラムの導入が1904年までさかのぼれることが明らかにされている。さらに松下トクの保育案を用い、1906年には中心統合主義カリキュラムにおける主題の展開方法が多彩化していた様子を指摘している。そして1907年には広島県の地域文化的特色を加味したカリキュラムとなったこと、松下トクの保育案内の作画方法の使い分けの分析から、子ども中心主義的な実践の地方における萌芽がみられたことを指摘している。そして最後に、M.M. クック、宮崎カメ、松下トクの保育案の検討から、広島女学校附属幼稚園における実践において、恩物への拘泥が逡減し、他方で保育案の展開方法や保育材料、手技の方法などが多彩化していったことを指摘している。

第4章では第3章までの知見を踏まえ議論をした上で、本論文の課題と研究の展望が述べられている。まず本論文の知見とその意義が検討され、東京女子師範学校附属幼稚園と同時並行、もしくは先行する形で地方の幼稚園においても保育研究や実践の変容が起り、また地方間でも幼稚園の交流や参照を行う関係があった点を非公刊史料も含めて検討することで明らかにした点を本研究の意義として指摘している。そして本研究の内容を踏まえて、本研究で検討した幼稚園の盛んな地域以外の幼稚園の検討を通じた本研究の事例の相対化、および「保姆の手記」などの探索と収集を通じた保育内容変容の背景となった問題意識の検討の二点が本研究の課題として指摘されている。

本論文は、以下の点において高く評価することができる。

- (1) 新しい史料の探索と収集を行い、特に広島女学校附属幼稚園において明治期に行われていた中心統合主義的な保育内容の導入経緯やその詳細を明らかにしたこと。
- (2) 従来十分に検討されてこなかった非公刊史料である保育案や幼稚園規則から、地方の保育実践、特に地方における幼稚園保育内容の変容の一端を明らかにしたこと。
- (3) 大阪市の教育関係者の広島女学校附属幼稚園への着目経緯の分析を通じ、地方間における幼稚園の参照・交流関係を実証的に明らかにしたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 26年 2月 19日